

令和 7 年度 建設局運営方針

(局長：寺川 孝)

「目標」「使命」及び「所属運営の基本的な考え方」	
目標	安全・安心で快適な市民生活、活力あふれる都市活動を支える都市空間の実現。
使命	道路・橋梁・河川・下水道・公園に関する膨大な都市基盤施設のストックを適切に維持・管理し、既存施設を効果的・効率的に活用しつつ、震災・風水害などに備えた都市基盤施設の機能拡充を行うとともに、都市のストック・ポテンシャルを活用して魅力ある都市空間を創出し大阪の成長や魅力向上となるまちづくりに取り組む。
令和7年度 所属運営の 基本的な 考え方	・大阪市では、道路、橋梁、河川、下水道、公園など膨大な量の都市基盤施設を管理しており、かつ、古くから都市化が進んだため、都市基盤施設の高齢化が進んでいる。これらの都市基盤施設は安全・安心な市民生活や都市活動を支える基盤であるため、計画的な管理を行い、その機能を着実に維持していく。また様々な分野の都市基盤施設を所管していることを強みとし、万博を契機とした「未来社会」の実現に向け、市民の安全安心と大阪の更なる成長を実現させるため、局の各分野を効果的に連携させ、一体的な局運営に取り組む。 ・南海トラフ巨大地震に備えた対策や密集市街地における道路整備、近年多発している集中豪雨への対応を強化するための地域特性にあった局地的な浸水対策など、震災・風水害に備えた都市基盤施設の機能拡充を進め、安全・安心な市民生活を実現する。 ・活力あふれる都市空間の実現に向け、道路空間の再編や水辺利用環境の創出、民間活力導入による都市公園の魅力向上など、それぞれの施設が持つポテンシャルを十分に活かした取り組みを、多様な主体と連携しながら、推進する。また、都市交通の円滑化に向けた連続立体交差事業や道路整備事業など、大阪・関西の成長を牽引するまちづくりに取り組む。 ・なお、3つの経営課題（「持続可能な都市を支える都市基盤施設の機能維持」、「震災・風水害などに備えた都市基盤施設の機能拡充」、「都市の成長と魅力向上」）の解決に向けて、本市のDX戦略に基づき、デジタル技術やデータを活用して業務改革を行い、効果的・効率的に取組を推進する。

重点的に取り組む経営課題

経営課題1 【持続可能な都市を支える都市基盤施設の機能維持】

		5決算額	一般 26,563百万円 下水 34,793百万円	6予算額	一般 34,173百万円 下水 39,031百万円	7予算額	一般 28,957百万円 下水 56,076百万円
課題認識	○都市基盤施設の高齢化が進むなかで、安全・安心な市民生活を実現するには、都市活動を支える都市基盤施設の機能低下を招くことのないよう、適切かつ効率的に都市基盤施設の維持管理を実施していく必要がある。						
主な戦略 (課題解決の方策)	・「定期的な点検の実施」により「施設の状態を把握」し、施設の重要度に応じて設定した「管理水準」を適切かつ効率的に維持することを基本とし、施設の特性に応じた効果的な維持管理を進め 都市基盤施設を良好な状態に維持する。						
アウトカム 指標 (経営課題の解決に向けた 進捗度合を示した指標)	①幹線道路の舗装について、適切かつ効率的に維持管理を行うため、管理水準（わだち掘れ量20mm以下等）を満たす延長を90%以上確保する。						
	②区画線について、適切かつ効率的に維持管理を行うため、短期集中的な補修として幹線道路に引き続き、生活道路の消えている区画線をR8年度末までに完了させるとともに、デジタル技術を活用した調査及びデジタルデータの蓄積を継続し、R9年度末までを目途に計画的な維持管理手法を確立させる。						
	③橋梁について、適切かつ効率的に維持管理を行うため、健全度の判定区分に基づき、早期に措置を講ずべき健全度Ⅲの橋梁については、次回点検（5年サイクル）までに対策を実施する。 ＜参考＞ 健全度Ⅰ（良い） ⇔ 健全度Ⅳ（悪い）						
	④河川堤防等について、適切かつ効率的に維持管理を行うため、評価区分に基づき、予防保全段階である評価区分cの堤防等については、計画的に対策を実施する。（3年以内） ＜参考＞ 評価区分a（良い） ⇔ 評価区分d（悪い）						
	⑤下水道管渠について、道路陥没リスクの低減のため、判定区分に基づき、健全度1に達しないよう健全度2と判定された施設をR12年度以降は5年以内に改築する。そのために、健全度2と判定された施設をR7～R11年度において25km削減する。 ＜参考＞ 健全度5（良い） ⇔ 健全度1（悪い）						
	⑥下水道設備について、排水機能及び処理機能を確保するため、判定区分に基づき、健全度1に達しないよう健全度2と判定された装置を5年以内に改築する必要がある、R3～R7年度において下水道設備を588装置改築する。 ＜参考＞ 健全度5（良い） ⇔ 健全度1（悪い）						
	⑦公園樹・街路樹について、健全で活力ある樹木の保全育成を行うため、目標樹形・樹高や維持管理のPDCAなどの樹木管理の基本的な考え方を定める「街路樹・公園樹マネジメント戦略」をR7年度に策定し、R8年度以降に、この戦略に基づく計画的な維持管理を実施していく。 樹木の健全度について、公園樹は、R7年度からR6年度の健全度調査結果を踏まえ、街路樹は、R8年度からR7年度の健全度調査結果を踏まえ、それぞれ目標値を定め、データに基づく維持管理を実施し、継続して状態を把握することで樹木の健全度を維持していく。						
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	7年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成					前年度実績	

経営課題2 【震災・風水害などに備えた都市基盤施設の機能拡充】

		5決算額	一般 9,036百万円 下水 10,139百万円	6予算額	一般 5,781百万円 下水 6,541百万円	7予算額	一般 4,732百万円 下水 9,970百万円
課題認識	〇切迫する巨大地震や激甚化・頻発化する風水害といった状況を踏まえ、安全・安心な市民生活を実現するため、引き続き都市基盤施設の機能拡充を進めていく必要がある。						
主な戦略 (課題解決の方策)	・今後起こるであろう災害を見据え、都市基盤施設の耐震対策、浸水対策等を着実に進める。						
アウトカム 指標 (経営課題の解決に向けた 進捗度合を示した指標)	①都市防災機能向上のため、密集市街地における延焼遮断帯・避難路機能等を担う都市計画道路（防災骨格路線）の整備を図り、防災骨格形成率をR12年度までに「大阪市密集住宅市街地整備プログラム」の目標である83%以上にする。						
	②都市防災機能向上のための緊急交通路（重点14路線）の無電柱化をR10年度までに完了させる。						
	③都市防災機能向上のための緊急交通路（重点14路線）の管渠耐震化をR10年度までに完了させる。						
	④都市防災機能向上のための橋梁の耐震対策をR10年度までに完了させる。（331橋のうち、残り2橋）						
	⑤都市防災機能向上のための河川護岸の耐震対策を実施する。（東横堀川（本町橋から農人橋間）の耐震対策については、R9年度までに完了させる。）						
	⑥災害に強く持続可能な上下水道システム構築のため、災害拠点病院（7施設）のうち4施設については、接続する下水道管路等の耐震化をR11年度に完了させ、残り3施設については、R17年度までに完了させる。						
	⑦概ね10年に1度の大雨（1時間に60ミリ）が降った際のまちの浸水に対する安全度をR7年度で98%、R8年度で99%にする。 また、気候変動を踏まえた浸水対策については、R22年度までに床上浸水解消、R57年度までに浸水解消を目的とし、R6年度に基本的な考え方をとりまとめた「大阪市下水道浸水対策計画2025」に基づき、降雨量の増大に対応した下水道施設（下水道幹線、雨水ポンプ等）等、具体的な施設整備計画をR7年度に策定する。						
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	7年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成					前年度実績	

経営課題3 【都市の成長と魅力向上】							
		5決算額	一般 52,084百万円 下水 8,139百万円	6予算額	一般 58,917百万円 下水 4,523百万円	7予算額	一般 51,335百万円 下水 2,551百万円
課題認識	○道路、公園など、それぞれの施設が持つストック・ポテンシャルを十分に活かし、だれもが住み・働き・訪れたい都市空間を実現していく必要がある。 ○高速道路ネットワークの強化や交通の円滑化など都市交通の充実に向けた取組を推進し、大阪・関西の成長を牽引するまちづくりを進めていく必要がある。						
主な戦略 (課題解決の方策)	・みどり豊かな都市空間の創出、道路空間の再編や水辺利用環境の創出等に取り組み、都市魅力の向上につなげていく。 ・高速道路ネットワークの強化や交通の円滑化など都市交通の充実に向け、事業推進を図る。 ・踏切除却、交差道路の整備（拡幅等）を実施し、交通阻害の解消を図る。						
アウトカム 指標 (経営課題の解決に向けた 進捗度合を示した指標)	①みどり豊かな都市空間を創出し、誰もが住みたい・働きたい・訪れたいと思う「みどりの都市」を実現するために、緑の基本計画をR7年度に改定し、計画に基づくリーディングプロジェクトなどの取組をR8年度以降に順次実施していくことで、都市魅力の向上につなげていく。 〈参考：リーディングプロジェクトとは〉 次期計画期間のみどりのまちづくりを先導するプロジェクトであり、みどりへの興味・関心を高める取組（情報発信など）や、みどりの満足度向上に向けた好循環を生み出す取組（みどりの質の向上など）を設定予定。						
	②御堂筋周辺エリアのにぎわい創出や回遊性の向上を図るため、御堂筋における官民連携での利活用やみちの未来体験EXPOなどの取組により、令和7年度の御堂筋周辺エリアにおける総滞在時間（来訪者数×滞在時間）を、利活用を実施していない平常時に比べ10%増加させる。						
	③2050年度カーボンニュートラルに向け、下水道事業において、省エネルギー設備の導入や消化ガス発電などの取組を実施し、R12年度に温室効果ガス46.5%削減（H25年度比）を達成させる。						
	④橋梁・河川において、将来的な民間主体による維持管理手法（道路協力団体制度や河川協力団体制度など）の導入をめざし、引き続き、R7年度についても、ブリッジテラス及びリバーテラス（社会実験）を春及び秋に各1回実施し、公民連携による利活用の促進を図り、エリアの魅力向上につなげていく。 〈参考〉 ブリッジテラスは、中之島ガーデンブリッジ、錦橋、水晶橋（中之島に架かる人道橋）、本町橋（現役の橋としては大阪市内最古の橋）が対象 リバーテラスは、東横堀川及び道頓堀川（日本橋～上大和橋間）が対象						
	⑤高速道路ネットワークの強化や交通の円滑化などを図るため、淀川左岸線（2期）事業のR14年度の事業完了に向けて事業を推進する。						
	⑥阪急電鉄京都線・千里線の淡路駅周辺において、安全かつ円滑な都市内交通を確保するとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図るため、17箇所の踏切の除却をR10年度までに完了させる。						
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	7年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成		前年度実績				
自己評価 (運営方針全体の 定性評価)							
今後の方針							